

6月のアルミレポートおよび7月の見通し (3)

橋本アルミ (株) 橋本健一郎



【住宅】

・平成30年5月の住宅着工戸数は79,539戸で、前年同月比で1.3%増となった。また、季節調整済年率換算値では99.6万戸（前月比0.4%増）となった。
 ・住宅着工の動向については、前年同月比で2か月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は減、分譲住宅は増となった。
 ・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-2.6%、17万1,786t、5か月連続マイナス。

【板類】

生産・出荷共に5か月マイナス。
 缶材38,879t(▲4.0%)。ビール系飲料の低調に加え、缶メーカーの在庫調整もあり、4か月連続でマイナス。
 自動車15,545t(9.2%)。乗用車向けの需要増は継続し、4か月連続でプラス。
 輸出16,097t(▲7.0%)。5か月連続でマイナス。

【押出類】

生産、出荷ともに2か月連続プラス。
 建設37,457t(4.8%)。東京オリンピック・パラリンピックに向けた都市開発の整備に伴う建設向けの需要増は継続し、2か月連続でプラス。
 自動車11,558t(0.7%)。乗用車向けの需要増は継続し、4か月連続でプラス。

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比+7.4%、6万5185t、8か月連続プラス。
 出荷は+7.1%、6万5157t、8か月連続プラス。
 内出荷先は、鋳物+4.7%、ダイカスト+10.1%、板0%、押出、-18%、鉄鋼+6.8%、合金地金メーカー-4.2%。

【輸出】

アルミ新地金が前年比+325.1%の417t。二次合金が-29.1%の1,624t、スクラップが-11.6%の6,874t、アルミ缶が+19.3%の6,802t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比+12.4%の16万2,829t。二次合金が+10%の11万7,437t、スクラップが+54.1%の1,065t、合金スクラップが+32.3%の5,137t。

【見通し】

・自動車は生産が+3.8%。国内販売台数が前年比-7.3%。生産が2か月連続プラス、販売が2か月連続マイナス。
 販売が増加に転ずるかどうかに注目。
 ・住宅着工の動向については、前年同月比で+1.3%と増加で2か月連続プラス。増加傾向が続くのかどうか今後の動向に注目。

・アルミ圧延・押出品生産数は、板類・押出生産合計が前年比-2.6%、5か月連続マイナス。今後更にマイナスが続くのか動向に注目。

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比+7.4%、6万5185t、8か月連続プラス。
 出荷は+7.1%、6万5157t、8か月連続プラス。
 今後もプラスが続くか注目。
 ・アルミ輸出は、アメリカの輸入規制に伴う地金高懸念を受けて大幅増加。
 アルミ缶は内需の荷余り感から増加。
 ・アルミ輸入は、全品種が中国塊の割安感から増加。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、中国塊の下落を受けてスクラップも連れて下落しており、売り玉が多いものの買い手は少なく飽和状態。

需要面に関しては前月に続き自動車の生産、販売が低迷していること、輸入地金の下落を受けて荷余り状態になるのではないかと？

【価格・為替予想】

今月は米貿易戦争と鉱山ストの動向に左右される。米中貿易戦争に関しては米ハーレー社の工場海外移転検討などに代表されるように米製造業からも反発の声が出てきており、両国間での歩み寄りが出てくるのではないかと？

鉱山ストに関しては、エスコンディーダ鉱山の労使交渉に関しては7月中に解決される可能性があるが、定期的にその他のストが起こる可能性があるのではないかと。

これらを踏まえた7月のアルミ価格は、米中貿易戦争で両国間の歩み寄りが見られ、エスコンディーダ鉱山で昨年同様労使交渉が決裂した場合2,300ドル付近。両条件が揃わなかった場合現状から2,100ドル付近まで下落するとの予想。

為替は上記材料からドル円値は109円~112円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては0~10円程度と予測している。

【「6月のアルミレポートおよび7月の見通し」終了】

日刊金属

購読料 12 ヵ月 72,000 円 (税別)
 6 ヵ月 36,000 円 (税別)

外電配信料 12 ヵ月 84,000 円 (税別)
 6 ヵ月 42,000 円 (税別)